

## 技術研究報告の発刊にあたり



技術本部長  
大本 晋士郎

熊谷組技術研究報告第82号の発刊にあたり、一言ご挨拶申し上げます。

2023年4月より技術本部長に就任し、2017年4月「技術本部」設立からの理念を引継ぎつつ、新たに技術開発部門をけん引する役を担うこととなりました。今後も引き続き、当社への変わらぬご支援のほどよろしくお願ひ申し上げます。

さて、3年以上にわたり猛威を振るった新型コロナウイルス感染症も、2023年5月に5類感染症に分類され、日常における行動規制は緩和され、街に日常の賑わいが戻ってきました。

特に5月以降、街では、アジア・欧米など海外からのお客様の姿を多く目にし、世界的な活況を目の当たりにしていますが、国内の建設業界に目を向けると、需要増の兆しがある一方で、資材高騰、インフラ施設の老朽化、建設業担い手不足、少子高齢化など、多くの問題の影が忍び寄り、これまで以上の改革を推し進める必要がある状況です。しかし新型コロナウイルス感染症による日常活動の制約は、改革に関して負の面だけではなかったように感じます。活動制約により、働き方への意識改革が強制的に促進され、またWeb会議の導入促進などDXへシフトチェンジを促したプラスの側面もあったように感じます。今後も様々な内外圧に応じ、建設業はより一層業務効率化を図る必要に迫られ、培った技術を高度化しつつ、環境配慮、デジタル新技術導入、新素材への取り組みなど、あらたな課題を設け挑戦を進めていく必要があります。

今回の熊谷組技術研究報告では、コロナウイルス感染症期間中の活動制約による影響をものともせず日頃行ってきた技術開発ならびに施工を、論文・研究報告8件、施工報告7件という形で発表するものです。例えば業務効率化において有効なソリューションとしてのDXでは、昨年末からは生成AIが話題となり、当社でも試行的な取り組みを行い、その事例を研究報告として紹介しています。また施工報告ではエネルギー施設が3件と、循環型社会形成の足掛かりとなる技術を紹介しています。

さて、本年度から熊谷組技術研究報告をリニューアルいたしました。リニューアルした点としまして、

①デザインの刷新

当社イメージカラーをシンプルにまとめた外装とし、内装では、論文・研究報告・施工報告のページに各色のカラータグを挿入し、分類をわかりやすくしました。

②CD-ROMの廃止と完全デジタル化

各報告文の本文はCD-ROMから当社HPへの掲載に変更しました。HPへの掲載とすることでWeb検索が可能となり、簡単な閲覧を提供できます。また、技術研究報告の冊子には閲覧ページへの直接アクセスのためのQRコードを掲載しました。

なお本報告で示すソリューション・技術の他にも、質の高い様々なソリューションを提供できます。本報告や過去の報告について、気になる点がございましたらお問い合わせください。皆様におかれましては、この熊谷組技術研究報告をご高覧いただき、格別のご理解とご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

2023年12月